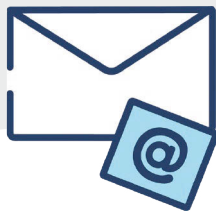


読者投稿コーナー



あなたの「声」をお待ちしています。

「こんな経験をした」「読者の皆さんはどう思う?」など、なんでもOK。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈します。

【投稿先】

E-mail : seikan@igaku-shoin.co.jp

コロナ禍の勉強会—— “昼活”を通して 他施設とつながる

小久保知由起

愛知医科大学看護学部

難しくなった学習会や研修への参加

私は大学教員として働いている一方、附属の大学病院兼任で、精神看護専門看護師として精神科リエゾンチームの活動に参加している。そのため、病棟の看護師が患者ケアに苦勞しながらも前向きに取り組んでいる姿を見る機会がある。一般病院においてせん妄や攻撃性を示す患者の対応に困ったとしても、他部署や他施設での工夫を知る機会はない。これまでその機会を担っていたのは、病院で開催される勉強会や他施設も交えた研修や事例検討会であった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により休憩時間の会話も減少し、学習会等への参加が難しくなった。病棟や施設を越えた学びの場が作れないかと考えていたところ、ちょうど大学の教授から「Zoomを用いた勉強会をやってみないか」という話があった。

昼活の実践

勉強会は実施時間を昼休憩の時間帯にしたため、「昼活」という名前になった。コロナ禍で忙しさが増している状況において、時間外に開催すると参加が困難になると考えた。Zoomを用いたのは、個人のスマートフォンから参加でき、参加者が集う必要がないことから、密を避けることもできるためである。

構成は、各回にテーマを設け、導入5分、テーマに関するミニレクチャー約20分、情報や意見交換約20分。病棟看護師や精神科の新人看護師が

知っているの良いと考えられるものを選定し、2022年度は7テーマ（パーソナリティ障害をもつ人の理解と看護、興奮・攻撃性への対応、認知症をもつ人の理解と看護、せん妄への対応、認知行動療法の考え方、メンタル・ステータス・イグザミネーション〔MSE〕、リフレクションとプロセスレコードの活用）とした。ミニレクチャーは主に大学の教員が行い、情報や意見交換では参加者にも発言してもらうことにした。気軽に参加できるよう「申し込み不要」とし、事前に配布したチラシのQRコードを読み込むか、メールで配信したZoomのID等を入力し参加できるようにした。

また、「昼活」は地域の精神科病院や精神障害者の地域生活支援施設にも案内し、大学の精神看護学のホームページでも告知した。外部施設からの参加申し込みについてはセキュリティの関係上、前日までとし、申し込みのあった方にZoomのID等をお知らせすることにした。

初回、大学病院からは個人や病棟単位での参加があり、地域の精神科病院や地域生活支援施設、ホームページで案内を見て参加して下さった人もいて、30名ほどが集まった。本稿執筆時は4回目を終えた段階であるが、院外からも継続的に参加がある。

意見交換の時間は少し足りないくらいに感じることもあるが、限られた時間であっても「昼活」の目的には概ね達成できていると考えている。

この昼活を通じて、「攻撃性を示す患者への対応に関して困っている看護師は多い」と感じた。様々な社会的状況の変化による影響と考えられるが、このテーマに関しては対応に当たる看護師自身も疲弊する体験となるため、より興味を持たれるテーマとなっているようである。各施設の看護師がつながる活動を、今後も改善を繰り返しながら続けたい。■